

長野県知事の意見

((仮称) 都市計画道路伊駒アルプスロード 環境影響評価方法書)

[全般]

- 1 伊那谷は日本の典型的な河岸段丘地形であり、斜面林が発達した段丘崖は地形地質の観点のみならず、景観、貴重な植物の生育地及び動物の移動経路として非常に重要である。今後の環境影響評価の実施に当たっては、こうした点を十分に認識の上、適切に調査、予測及び評価を実施するとともに、段丘崖への影響を極力回避低減するよう努めること。
- 2 準備書においては、今後決定する具体的なルートや切土や高架等の道路構造を踏まえ、適切に調査、予測及び評価を実施すること。また、詳細な平面縦横断線形が明らかになった時点で技術委員会に報告し、調査地点や調査方法について助言を受けるよう努めること。
- 3 準備書においては、予測条件や予測式とその出典など予測評価の根拠を明確に示すとともに、新たな科学的な知見の収集を行い、より精度の高い図書となるよう努めること。
- 4 準備書においては、主務省令に基づく記載だけでなく、専門用語に係る注釈や定義の明確化、コンターを用いた表現の活用等により、住民に対してより分かりやすい図書となるよう努めること。

[事業計画]

- 5 準備書においては、事業の目的について、地域の幹線道路の状況や救急車両の交通網の変化をより丁寧に記載するとともに、現状の交通量と計画交通量との比較等により、道路の整備効果を分かりやすく説明すること。

[大気質、騒音、振動]

- 6 宮田村中越地区など、ルート帯内において住居等がまとまって存在する地域について、具体的なルートや道路構造を勘案の上、大気質、騒音、振動の調査、予測及び評価の対象とすることを検討すること。
- 7 工事による通行規制に伴う迂回車両により周辺環境に影響を与えるおそれのある路線については、大気質、騒音、振動について、調査、予測及び評価の対象とすることを検討すること。

[水象]

- 8 水象（地下水）の調査については、段丘を通過し、切土が生ずる可能性が高い区間を予測・評価対象とし、切土施工箇所から 500m 範囲を地下水への影響が及ぶ可能性がある範囲として設定すること。また、各区間において、既存井戸の利用状況を確認するとともに、その結果を踏まえて、地下水の流向を把握するのに十分な数の観測井を設けること。

9 農業用水路について、主要な水路の状況を把握するとともに、工事の実施により農業用水への影響が懸念される場合は、流量変化等による利水への影響について予測及び評価を行うこと。

[動物、植物、生態系]

10 当該地域を流れる河川では、希少な動植物が多く確認されており、特に希少なトンボ類が生息する可能性があることから、そうした点にも留意して調査地点を設定するとともに、生息が確認された場合には十分配慮すること。

11 動物及び植物の調査時期について、昆虫の発生時期や植物の同定可能な時期等に係る専門家等の意見を踏まえた上で、対象種に合わせた適切な時期に調査を実施すること。

12 オオムラサキの食草であるエノキ等の群落地について、準備書において重要な生息地として位置付けることを検討すること。

13 ナゴヤダルマガエルやトノサマガエルなどの両生類は、河川よりも小規模な用水路に生息していることが多いので、そうした点にも留意して調査地点を設定すること。

14 植物種や植生の調査について、段丘崖の斜面林のほか、丸石河原の河川敷など希少種が多く生育する場所や希少なチョウ類の食草の生育場所を重点的に調査すること。

15 トンボ類については、種ごとに生息環境が異なるため、それぞれの環境ごとに上位性・典型性・特殊性の観点から具体的な種を選定し、調査、予測及び評価を行うこと。また、特殊性の観点からは、チョウ類のミヤマシジミやクロツバメシジミの選定についても検討すること。

16 生態系の調査の手法について、事後調査において多様性指数及び類似度指数を用いた解析が可能となるよう、場所を決めた定量的調査手法の実施を検討すること。

[人と自然の触れ合いの活動の場]

17 三峰川サイクリングロード等について、工事中における交通制限などにより影響が考えられるため、調査、予測及び評価を行うこと。

18 三峰川榛原公園及び河原町せせらぎ公園について、人と自然との触れ合い活動の場としての利用状況を確認し、調査、予測及び評価の対象に加えることを検討すること。

[文化財]

19 伊那市内の古墳群について、分布の状況を把握すること。また、土木工事等により遺構等に影響を及ぼす可能性がある場所については、市村の文化財保護部局と協議の上、必要に応じて試掘調査等を行うこと。